

誼理大 須貝さん 池田さん 作製の小惑星模型

国立科学博物館(東京)で展示

来月13日まで



公開されているデータを基に小惑星の縮尺模型を作った池田怜央さんと須貝悠士さん。八ヶ岳総合博物館

茅野市八ヶ岳総合博物館の依頼で、公立諏訪東京理科大学(同市)の学生2人が作製した小惑星の模型2点が、国立科学博物館(東京上野)で

開催中の企画展「小惑星からのサンプルリターン」で展示されている。3D(3次元)プリンターで作った小惑星「リュウグウ」と「ベヌー」の縮尺2000分の1の模型。

2人は「多くの人に見てもらえてうれしい」と喜んでいる。

模型作製は八ヶ岳総合博物館と同大学地域連携プロジェクトの共同企画。今年4月に同館が小惑星イトカワとリュウグウの模型作りを同大学に依頼した。ともに情報応用工学科1年の須貝悠士さん(19)と池田怜央さん(19)が手を挙げ、主に夏休みを活用して3DCADと3Dプリンターで完成させた。

イトカワとリュウグウの模型は同館で今秋開いた展示会でお披露目した。その際、同館を訪れた国立科学博物館の担当者目に留まり、企画展に向け模型の借用と小惑星ベヌーの作製を

依頼。2人はベヌーの模型も作った。

須貝さんは「子どもの頃から宇宙に興味があった。国立科学博物館で展示されるとは思わなかったのうれしい」と喜び、池田さんは「3Dソフトのノウハウを身に付けたかった。良い経験になったけど力不足を感じたので次につなげたい」と笑顔を見せた。

国立科学博物館の企画展は、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ」と「はやぶさ2」が持ち帰った小惑星イトカワとリュウグウのサンプル、NASAの探査機「オシリス・レックス」が持ち帰った小惑星ベヌーのサンプルの3点を同時公開している。1月13日まで。

八ヶ岳総合博物館ではミニコーナーを設け、イトカワとベヌー(試作品)の模型や活動紹介のパネルを展示している。1月13日までの予定。

(宮沢知史)